

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、平成15年度病虫害発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成15年度病虫害発生予察特殊報第2号

- 1 対象作物 イチゴ
- 2 病虫害名 マルガタツヤヒラタゴミムシ
(*Synuchus arcuaticollis* Motschulsky)
- 3 発生地域 前原市
- 4 特殊報の内容
 - (1) 初発生確認の経緯
 - ア 平成15年3月中旬に前原市のイチゴほ場で、オオタバコガ幼虫の食害に類似した果実への加害が発生しているとの報告があった（写真）。
 - イ 被害ほ場の黒ビニルマルチの下に多くのゴミムシ等が確認された。
 - ウ 採集したゴミムシにイチゴ果実を与えて一晩置いたところ、翌朝には果実への加害が確認され、食害痕は現場での被害と一致した（写真）。
 - エ 琵琶湖博物館の八尋克郎氏と伊藤昇氏にこれらのゴミムシ類の同定を依頼した結果、マルガタツヤヒラタゴミムシ(*Synuchus arcuaticollis* Motschulsky)であることが判明した（写真）。ヒラタゴミムシ類が植物を加害するという報告はこれまでない。
 - (2) 被害状況
果実内部まで深く穴をあけるなど、オオタバコガ幼虫の加害に類似していた。成熟果実のみが加害され、未熟果やその他の部位への加害は確認されなかった。夜間に被害が拡大しており、生産者は毎朝、全収穫果実の約10%を廃棄しなければならないほどであった。
 - (3) 形態・生態等
 - ア 本虫はその属の中で最も普通に見られる種で、北海道、本州、四国、九州、千島に分布し、山地や平地に生息する。
 - イ 成虫の体色は黒く、体長は8.0~10.5mmである。
 - ウ 本種の生態等は研究が進んでおらず不明である。
一般的にゴミムシ類は肉食性であるが、植食性・雑食性の種もある。

エ 野菜類の害虫としては、マルガタゴミムシ、ゴミムシ、ホシボシゴミムシ、トックリナガゴミムシ、マルガタゴモクムシがあり、前4者はイチゴ、後1者はキャベツ等を加害することが知られている。

オ 本県でのゴミムシによる被害は、10年程前に八女地域で、平成14年の春には筑後地域で確認されているが、種名は明らかではない。

5 防除上注意すべき事項

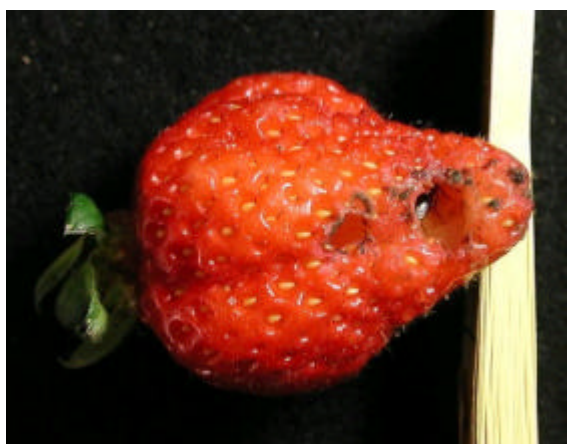
- (1) 本種を対象に登録された農薬はないので、発生させないことが重要である。
- (2) ゴミムシ類の食性から、未熟堆肥に入ってハウスに持ち込まれ、被害を及ぼしたと考えられるため、完熟堆肥を使用する。
- (3) 今のところ、本県での被害の発生地域は一部に限られているが、今後、注意が必要である。



現地でのイチゴの食害（写真）



食害痕からの腐敗（写真）



ゴミムシを接種して再現された食害
（写真）



マルガタツヤヒラタゴミムシ
（写真）